

本時のねらい

・3学期初めての毛筆の授業を、姿勢に注意しながら楽しむ。また、ひらがなを書く時の筆づかいに注意しながら書く。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・ICT機器を活用して、字を書く時の姿勢を意識させる。
・自分の書いている様子を動画にとり、見本の筆づかいと、自分の筆づかいを見比べ、よりよい字を視覚的にわかりやすく書けるようにする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・3年生書写デジタル教材 ・iPad ・電子黒板 ・ロイロノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に取り組むデータを受け取る。 ・本時の流れを確認する。 ・毛筆を使用するときの机上の準備の見本を見ながら、準備をする。準備ができたなら写真をとり、見本と見比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に電子黒板で説明するデータを配付することで、視覚支援が必要な児童の理解を促す。 ・iPadで写真を撮り見本と同じになっているか客観的に見比べることで楽しく準備ができる。
展開 (50分)	<ul style="list-style-type: none"> ・習字を書く時の正しい姿勢を動画で確認し、ペアの人に自分の姿勢を写真で撮ってもらう。 「体がななめになっているよ」「足はもっと前だよ」 ・「つり」の文字を書いている自分の筆づかいをペアの人に撮ってもらう。 ・見本の筆づかいと自分の筆づかいを見比べ、筆先を意識しながら「つり」の練習を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢について①机や椅子の間と体の間隔②足を置く位置③背筋④筆の持ち方 の4つのポイントを提示する。それぞれの写真をペアで交流しながら撮る。児童どうして確認し合う。 ・自分やペアの相手の筆づかいと見本の筆づかいを意識して見ることで筆の扱い方や筆先の動きのイメージを高めて書くことが期待できる。
まとめ (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・半紙に「つり」を2枚書く。今日のまとめとして姿勢や筆づかいに注意しながら個人で丁寧に仕上げる。 ・2枚のうち、自分が良いと思った方を提出する。 ・習字道具を片づける。 	

1人1台端末を活用した活動の様子



見本を見ながら机に出すものを準備している場面



ペアで正しい姿勢の写真を撮りあう場面



課題の字を書いている動画を撮ったものや見本の動画を見ている場面

児童生徒の反応や変容

・時間をかけて筆づかいに意識しながら取り組む時間を設定したことで、前回までの文字と比べると格段に丁寧に字を仕上げるようになってきた。
・普段自信なく作品を提出する児童は、筆先の動きのイメージをもち、「つり」の曲がりやはらいを注意して、自信を持って作品を提出することができた。
・毛筆が得意な児童は、ペアで動画を撮る際に相手に教えながら撮っていたり、自分が動画に取られるときに相手に見本を見せるようにしたりして活動していた。自分の特技を生かせる機会になっていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・前回までの毛筆の時間で課題だった、「筆先や筆づかいを意識せずに書いている」や「自分の書き方、筆づかいが正しいかわかっていない」ことへのアプローチとして、字を書いている手元の動画をペアで撮りあう活動を取り入れた。
・今回は3学期初めての習字として、準備物や姿勢、書き方についてICT機器を活用して復習しながら取り組んだが、1学期から行うことでより効果的な指導になると感じた。
・特に、自分が課題の文字を書いている手元を動画でとってもらい、見本の書き方と見比べる作業は、1学期から継続して行うことで筆先を意識して字を書く児童が増えていくと感じた。
・書写は「静かに、個人で」行う活動として扱っていたが多かったが、あえて児童間でやり取りをしながら行うことで、自分たちでお互いにアドバイスをしながらよりよい字が書けるように活動できたように思う。児童がお互いに高め合うことで、教員は、配慮や支援が必要な児童に対し、個別に対応し、当該の児童が自信を持って取り組めるように支援することができた。